

ヘーゲル『論理学』初版（1812年）391段落～395段落

段落	文	頁	行	原文	神山訳	寺沢訳
		134	1 2 3 4	Erstes Kapitel. Die Quantität. A. Die reine Quantität	第一章 量 A. 純粋な量	第一章 量 A 純粋量
391	1		5 6 7 8 9	1. Die Größe ist das aufgehobene Fürsichseyn; das repellirende Eins, das sich gegen anderes nur negativ verhielt, ist in die Beziehung mit demselben übergegangen, es verhält sich identisch zu dem andern, und hat damit seine Bestimmung verlohren.	一、〈大きさ〉は、廃棄された〈それだけで独立した存在〉である。〈他の一つ〉に対してたんに否定的に関わった《追い出しをする〈一つ〉》は、この〈他の一つ〉と関係することに移行した。《追い出しをする〈一つ〉》は、〈他の一つ〉に同一的に関わり、そうなれば、それとともにみずからの規定を失ってしまう。	一、大きさは揚棄された向自存在である。他者に対して否定的のみふるまう反撥する一は他者との関係へと移行してしまっており、他者に対して同一的にふるまい、こうすることによって反撥する一は自己の規定を失っている。
	2		9 10 11 12 13	Das Fürsichseyn ist Attraction geworden; aber diese ist selbst nicht das Werden der Vielen zu Eins geblieben; denn der Unterschied Eines Eins zu andern ist gleichfalls verschwunden und diß Werden zur Ruhe geworden.	こうした〈それだけで独立した存在〉は、牽引になったが、牽引は、それ自身では、〈多く〉が〈一つ〉に〈成ること〉ではないままであった。というのも、《〈一つの〉〈一つ〉》と〈他の一つ〉との区別が、同様に消失して、そうした〈成ること〉が静止となったからである。	向自存在は牽引になっているわけであるが、しかし牽引はそれ自身が、多が一になる運動にとどまてはいない。というのはひとつの他のもろもろの一に対する区別は同様に消失してしまっており、こうしてこの〔多が一に〕成る運動は静止になっているからである。
	3		13 14 15	Attraction und Repulsion sind in einer Einheit aufgehoben, oder zu Momenten herabgesunken.	【牽引】と【反発】とは、一つの統一で廃棄されており、いいかえれば、【モメントに引き下げられて】いる。	牽引と反撥とは統一のうちで揚棄されている、換言すれば契機へとおし沈められている。
	4		16 17 18	Das Eins ist in Beziehung auf sich selbst, durch die Attraction, und auf sich zugleich als auf ein Anderes, durch die Repulsion.	〈一つ〉は、牽引によって、みずから自身との関係のうちであり、反発によって、みずからとの関係と同時に〈他の一つ〉との関係のうちにある。	一は牽引によって自己自身へと関係しており、また同時に、反撥によって他者としての自己へと関係している。
	5		18 19 20 21	Das Eins als diß mit den Eins, die sich repelliren, eben so sehr zusammengegangene Eins, hat somit, so zu sagen, eine Breite erhalten, und sich zur Einheit ausgedehnt.	これによって、〈一つ〉は——《たがいに追い出しあうもろもろの〈一つ〉》と同じ程度に一緒になるこうした〈一つ〉としては——、いかなれば、〈幅〉を獲得したのであり、みずからを【統一】へと延長したのである。	たがいに反撥しあうもろもろの一とまさにこうして合体してしまったこの一としての一は、そのことによって、いわば幅を獲得したのであり、自己を統一へとおしひろげている。
	6		21 22 23 24 25 26	Die absolute Sprödigkeit des repellirenden Eins ist in diese Einheit zerflossen, welche aber als diß Eins enthaltend durch die innwohnende Repulsion zugleich bestimmt, und somit als Einheit des Ausersichseyns Einheit mit sich selbst ist.	《追い出しをする〈一つ〉》の絶対的な冷淡さは、この統一のなかで溶解した。しかし、この統一は、こうした〈一つ〉を含むものとしては、内在する反発によって同時に規定されており、それとともに【〈みずからの外にあるこ	反撥する一の絶対的なとりつきにくさはこの統一へと溶けこんでいるが、しかしこの統一はこの一を含むものとして内在している反撥によって同時に規定されており、こうして自己外存在の統一として自己自身との統一である。

ヘーゲル『論理学』初版（1812年）391段落～395段落

					と〉である統一」としては、【みずから自身との統一なのである】。	
	7	26 27	Die Attraction ist auf diese Weise das Moment der <i>Continuität</i> in der Größe geworden.		牽引は、こうしたあり方で、〈大きさ〉において【連続態】というモメントになった。	牽引はこのようにして大きさにおける連続性の契機になっている。
392	1 135	1 2 3 4	Die <i>Continuität</i> ist also einfache, sich selbst gleiche Beziehung auf sich, die durch keine Grenze und Ausschliessung unterbrochen ist, aber nicht unmittelbare Einheit, sondern Einheit der fürsichseyenden Eins.		したがって、【連続態】は、みずから自身に同等で単純な《みずからへの関係》である。この関係は、限界や排除によって中断されていない。しかし、この連続態は、直接的な統一ではなく、〈それだけで独立している〉もろもろの〈一つ〉が統一しているものである。	したがって連続性は自己への単一な・自己自身に等しい関係であり、この関係はいかなる限界や排除によっても中断されない、しかし連続性は量的な統一ではなくて、向自存在的なもろもろの一の統一である。
	2	5 6 7	Darin ist also das <i>Aussereinander</i> der <i>Vielheit</i> enthalten, aber zugleich als eine nicht unterschiedene, <i>ununterbrochene</i> .		だから、【多態】が〈【たがいの外だ】〉ということは、連続態に含まれているけれども、同時に、区別されず【中断されない】ものとしてそこに含まれている。	したがって連続性のうちには数多性という相互外在が含まれているが、しかし同時にそれは区別されていない・中断されていない数多性として含まれている。
	3	7 8 9 10	Die Vielheit ist in der Continuität so gesetzt, wie sie an sich ist; die Vielen sind nemlich eins was andere, jedes dem andern gleich, und die Vielheit daher einfache, unterschiedslose Gleichheit.		連続態では、多態がそれ自体のあり方で設定されている。すなわち、〈多〉はおよそ《他の〈多〉》と一致しており、それぞれの〈一つ〉は他の〈一つ〉と同等であって、だから、多態は単純で区別を欠いた同等態である。	数多性は連続性においてそれが本来的にあるがままに定立されている。すなわち多くのものは〔そのおのおのが〕他者があるところのものとしてひとつであり、おのおのが他者に等しい。したがって数多性は単一な・区別の欠如した相等性である。
	4	10 11 12	Die Continuität ist dieses Moment der <i>Sichselbstgleichheit</i> des <i>Aussereinanderseyns</i> .		連続態というのは、このようなモメントであって、〈たがいの外にあること〉が〈【みずから自身に同等であること】〉だというモメントである。	連続性とは、相互外在的存在の自己相等性というこの契機である。
393	1	13 14	2. Unmittelbar hat daher die Größe in der Continuität das Moment der <i>Discretion</i> .		二、このことから、直接的に、連続態のかたちをした〈大きさ〉は、【分離】のモメントを持っている。	二、したがって大きさは連続性のなかに直接に離散性という契機をもっている。
	2	14 15 16 17	Die Stätigkeit ist <i>Sichselbstgleichheit</i> aber des Vielen, das jedoch nicht zum Ausschliessenden wird; und die <i>Repulsion</i> dehnt erst die <i>Sichselbstgleichheit</i> zur <i>Continuität</i> aus.		しかし、この連続は、まだ〈排除するもの〉になっていない〈多〉がもつ〈みずから自身に同等であること〉である。そして、反撥は、最初のところ、この〈みずから自身に同等であることを〉を延長するかたちで連続態にする。	連続性は自己相等性であるが、しかし多の自己相等性であり、多は〔自己相等性であるならば、もっぱら自己にのみ関係するものとして、他者を排除すると考えられるかもしれないが、しかし〕それにもかかわらず排除するものにはならない。そして反撥ははじめてこの自己相等性を連続性へとおしひろげているのである。
	3	17 18 19	Die <i>Discretion</i> ist daher ihrerseits zusammenfließende <i>Discretion</i> , deren Eins nicht das Leere, das Negative, zu ihrer Be-		だから、その分離は、連続態の面からすると、合流する分離である。この分離によるもろもろの〈一つ〉は、〈空虚なもの〉や〈否定的なもの〉	したがって離散性のほうはといえば、これは合流する離散性であり、そのふくむもろもろの一は空虚なもの・否定的なものをそれらの関係

ヘーゲル『論理学』初版（1812年）391段落～395段落

		20 21	ziehung haben, und die Stätigkeit, die Gleichheit mit sich selbst im Vielen, nicht unterbrechen.	の)を分離の関係として持たないし、連続を、すなわち〈多〉において《みずから自身に〈同等であること〉》を中断もしない。	としてもっておらず連続性すなわち多のなかでの自己自身との相等性を中断しない。
	4	21 22 23	Der Unterschied des Repellirens ist daher nur als Unterscheidbarkeit vorhanden.	このことから、〈反発すること〉による区別は、ただ区別可能態としてのみ現前するのである。	したがって反撥作用の〔おこなう〕区別は区別の可能性としてだけ現存しているのである。
394	1	24 25 26 27 28 29 30	3. Die Größe, als die Einheit dieser Momente, der Continuität und Discretion kann <i>Quantität</i> genannt werden; indem bey dem Ausdruck <i>Größe</i> das Unmittelbare derselben, und die begrenzte Größe, das Quantum, der Vorstellung näher liegt, <i>Quantität</i> aber mehr an das Reflectirte und den Begriff derselben erinnert.	連続態と分離という以上のモメントの統一である〈大きさ〉は、【量】と呼ぶことができる。それは、〈【大きさ】〉という表現の場合だと、表象は、〈大きさ〉の〈直接的なもの〉と、限界づけられた〈大きさ〉である数量とをまっさきに思い浮かべるが、【量】は、〈大きさ〉が〈折れ返ったもの〉と〈大きさ〉の概念とを想起させることによる。	三、連続性と離散性というこれらの契機の統一としての大きさは量と名づけられることができる。大きさという表現のもとではその直接的なものが、したがってまた限界つけられた大きさ・すなわち定量が表象にとってより近くにあるが、量〔という表現〕はむしろその反省されたものおよび概念を思いおこさせる〔から、この表現を用いるのである〕。
395	1	31 32	Die Quantität ist also Fürsichseyn, wie es in Wahrheit ist.	したがって、量とは、真実のあり方をしていゝる〈それだけで独立していること〉のことである。	したがって量は真理態にあるような向自存在である。
	2	136 32 1	Es war das sich aufhebende Beziehen auf sich selbst, perennirendes Aussersichkommen.	〈それだけで独立していること〉は、みずからを廃棄するかたちで《みずから自身に關係すること》であったし、いつまでも〈みずからの外に出て来ること〉であった。	向自存在は自己を揚棄しながら自己自身へと關係する運動であり、反復しておこなわれる自己の外へと出る運動であった。
	3	1 2 3	Aber das Abgestossene ist es selbst; die Repulsion ist daher das erzeugende Fortfliessen seiner selbst.	しかし、〈それだけで独立していること〉それ自身は、突き離されたものである。それゆえ、反発は、〈それだけで独立していること〉それ自身が産出しながら流れ去ることである。	だが〔向自存在によって〕つきはなされたものは向自存在自身である。したがって反撥は向自存在自身が〔自己を〕産出しながら流れ進む運動である。
	4	3 4 5 6 7 8	Um der Dieseligkeit willen des Abgestossenen ist diß Discerniren, ununterbrochene Continuität; und um des Aussersichkommens willen, ist diese Continuität, ohne unterbrochen zu seyn, zugleich Vielheit, die eben so unmittelbar in ihrer Gleichheit mit sich selbst bleibt.	突き離されたものが同じであるために、このように分離することは、中断されない連続態である。また、〈みずからの外に出て来ること〉であるために、このような連続態は、中断されることなしに、同時に多態である。この多態は、同様に直接的に、みずから自身にみずからが〈同等であること〉にとどまっている。	つきはなされたものの同一性のゆえに、この離散させる運動は中断されることのない連続性であり、また自己の外へ出る運動のゆえに、中断されることのないこの連続性は同時に、またまさに直接に自己自身とのその相等性のうちにとどまっている数多性である。